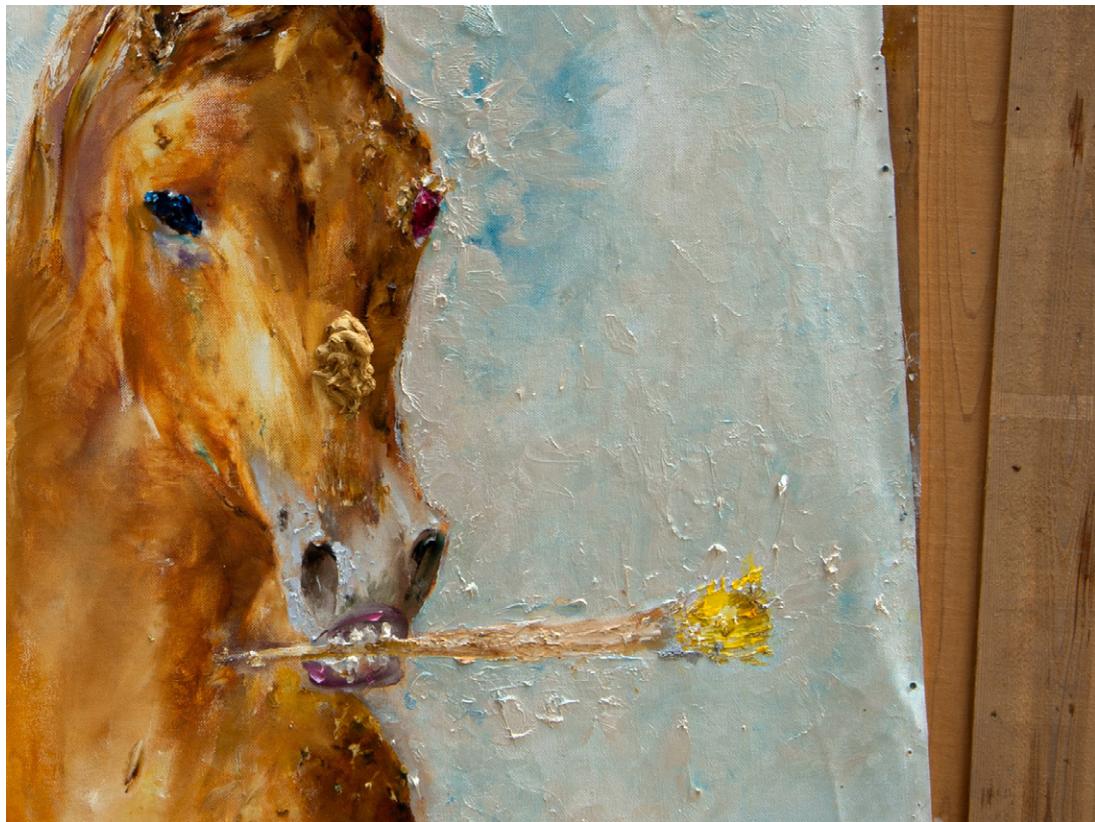


小林正人 「この星の家族」

2021年9月10日(金) – 10月16日(土)



小林正人, 画家の肖像, 2020 (部分)

oil, canvas, wood, 230x191x11cm

俺が思ってる画っていうのは頭ん中にあって、つまりボディーがない。どういうかたちになつてもいい自由なイメージの状態が画の正体で、だから画は誰にも見えない。それが頭の外に出て様々なかたちをとつて現れたものが眼に見えるようになった画、つまりみんなが見てるのはそれだ。

「正体と画が一致することは稀だよ。本人にしたらずっと未完成なんだ」

未完成にしないと一致しねえっていうか……。

小林正人『この星の絵の具 [中] ダーフハース通り 52』 p.340

シュウゴアーツは小林正人の新作個展『この星の家族』を2021年9月10日（金）から10月16日（土）の会期で開催いたします。

小林正人の絵は空間へ拡張し、空間が絵の中に入り込み、現実の光も想像の光も渾然となって誕生します。絵画の周りにある枠らしき木片は外に向かって飛び出していたり、折れ曲がっていたり、キャンバスのかたちも形容できるものではありません。絵画は果たして完結しているのでしょうか？絵が現実の世界に依拠するものであれば、支持体の形や大きさに縛られることなく、どこまでも画であって良いはずです。その外枠を「この星の絵画」という感覚的なフレームによって切り取ることで、小林は画家が見ている世界に限りなく近く、鑑賞者が想像力を通して想起するそれぞれのイメージの世界を同時に実現させることを可能にします。



小林正人, この星のモデル(胸に傷がある女), 2021

oil, canvas, wood, 約 220x220x65cm

“この星”っていうのもこの質感をハッキリさせるための感覚のフレームなのかもしれない。画に額縁をつけて平らな壁からハッキリさせるように。

小林正人『この星の絵の具 [中] ダーフハース通り 52』 p.363



小林正人, 画家の肖像, 2020, oil, canvas, wood, 230x191x11cm

鼻に泥の様な絵の具の塊を付けて筆を咥えてる馬の肖像は画家の肖像画で俺には家族がいる

小林正人

今展では、筆を歯噛みし前面に飛び出してきそうな馬の肖像画に加え、モデルをモティーフにした新作を発表いたします。描かれたモデルはあたかもキャンバスの側面を掴み動き出しそうな様子であったり（この星のモデル（胸に傷がある女）、2021）、別の作品では走り去るモデルの痕跡が絵画を創出していたり（ランニングマン、2021）、描かれる対象の身体性が絵画の身体性を決定し、絵を支配しているのは画家ではなくモデルであるかのような関係性の逆転も感じられます。イメージは画布の上に定着せず、意味や概念のはるか先に存在しています。ここでもまた私達はこの星の鑑賞者として想像力の領域を刷新し、新しい各々のイメージを創造することになるでしょう。なお今展では現代芸術振興財団の協力を得て、六本木アートコンプレックスを繋ぐ「ペア作品分離展示=LOVE」のインсталレーションも展開いたします。どうぞご期待ください。

2021年7月 シュウゴアーツ

展覧会概要

小林正人「この星の家族」

会期：2021年9月10日(金) – 10月16日(土)

会場：シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F

開廊時間：火～土曜 正午 – 午後6時（日月祝休廊）

*オープニングレセプションは開催いたしません。新型コロナウィルス対策のため開廊時間を短縮しておりますのでお出かけの際にはご注意ください。

ペア作品分離展示=LOVE

会場：現代芸術振興財団 東京都港区六本木6丁目6番9号 ピラミデビル 4F

開廊時間：会期中の木・金・土曜、正午 – 午後6時（日・月・火・水・祝休廊）

協力：現代芸術振興財団

アーティストについて

小林正人は1957年東京生まれ。1980年代半ばより絵画の在り方を独自に探求する。「白いキャンバスを木枠に張ってから描き始めるのでは遅い」として、絵の具をチューブから直接手にとり、キャンバスの布地を片手で支えながら擦り込むようにして色を載せ、同時に木枠に張りながら絵画を立ち上げていくという手法を確立。イメージと空間を同時に誕生させ、絵画の魂と肉体を一つに合わせるような方法論によって生み出される作品は、空間の中で強い存在感を放ち観るものに迫る。主な個展：「画家とモデル」シュウゴアーツ（2019）、「ART TODAY 2012 弁明の絵画と小林正人」セゾン現代美術館（長野、2012）、「この星の絵の具」高梁市成羽美術館（岡山、2009）、「STARRY PAINT」テンスタコントハーレ（スウェーデン、2004）、「A Son of Painting」S.M.A.K.（ゲント、2001）、「小林正人展」宮城県美術館（2000）。2018年自伝小説『この星の絵の具 [上]』、2020年に続編となる『この星の絵の具 [中]』を上梓。ビルドゥングスロマン完結編となる下巻は2022年刊行予定。

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：<http://shugoarts.com/topics/>

ShugoArts シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

掲載用画像の貸出し・お問い合わせ 本展企画担当：石井美奈子 minako@shugoarts.com プレス担当：大谷樹生 nayuta@shugoarts.com